

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年11月6日
【四半期会計期間】	第84期第2四半期（自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日）
【会社名】	ニチコン株式会社
【英訳名】	NICHICON CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉田 茂雄
【本店の所在の場所】	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地
【電話番号】	(075) 231 - 8461 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経理本部長 近野 斉
【最寄りの連絡場所】	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地
【電話番号】	(075) 231 - 8461 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経理本部長 近野 斉
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第83期 第2四半期 連結累計期間	第84期 第2四半期 連結累計期間	第83期
会計期間	自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	自平成30年4月1日 至平成30年9月30日	自平成29年4月1日 至平成30年3月31日
売上高 (百万円)	57,007	59,883	114,767
経常利益 (百万円)	3,545	3,666	7,005
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失( ) (百万円)	2,149	655	10,905
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,428	423	4,352
純資産額 (百万円)	103,311	95,227	95,762
総資産額 (百万円)	151,495	155,846	154,792
1株当たり四半期純利益金額又は1 株当たり四半期(当期)純損失金額 ( ) (円)	30.87	9.41	156.60
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	67.0	59.8	60.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	5,157	12,961	7,989
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,641	1,370	2,858
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	981	12,857	1,840
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高 (百万円)	23,033	23,538	24,841

回次	第83期 第2四半期 連結会計期間	第84期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成29年7月1日 至平成29年9月30日	自平成30年7月1日 至平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1 株当たり四半期純損失金額( ) (円)	20.38	7.16

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれていません。

3. 第84期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

4. 第83期第2四半期連結累計期間および第83期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

5. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間および前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっています。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日～平成30年9月30日）のわが国経済は、輸出を中心に企業業績の改善が進んだほか、個人消費の回復や設備投資の増加などにより、緩やかな景気回復基調が続きました。海外については、米国経済は、米中の貿易摩擦の影響が懸念されるものの、企業業績が引き続き堅調に推移するなど緩やかな拡大基調が続きました。欧州経済は、一部に政治的リスクがあるものの、全体としては内需の底堅さを維持して景気が改善傾向となりました。また、中国経済は、貿易問題により輸出減速が懸念されるなど先行きに不透明感が増えています。

このような状況において当社は、IoTやAIなど、新たなキーテクノロジーによって多様化する重点4市場「エネルギー・環境・医療機器」「自動車・車両関連機器」「白物家電・産業用インバータ機器」「情報通信機器」に引き続き注力しました。コンデンサ事業では、高い成長が続く自動車、産業機器およびインバータ家電向けコンデンサの売上が増加しました。また、拡大するIoT市場などに向けた小形リチウムイオン二次電池の開発を行い、アルミ電解コンデンサでは自動車および産業機器市場で求められる高温度化、長寿命化、低ESR化、高リプル化に対応した導電性高分子アルミ固体電解コンデンサの新製品市場投入およびチップ形アルミ電解コンデンサのラインアップの拡充を行いました。

NECST(Nichicon Energy Control System Technology)事業については、当社の経営の新たな柱にすべく注力しました。電力の自家消費時代に向け、太陽電池とEV・PHVの電池と蓄電池の3つの電池を効率よくつなぐ次世代蓄電システム「トライブリッド蓄電システム®」を市場導入しました。加えて超小型、低価格の単機能蓄電システムとEV普及期に向けた系統連系型V2Hシステムを新たに開発し、FIT（固定価格買取制度）期間終了家庭に向けて「蓄電のニチコン」として製品を提供してまいります。さらに、頻発する自然災害への対応として設置工事が不要な「ポータブル蓄電システム」やEV・PHV・FCVの大容量電池から電気を取り出し避難所などへの活用を可能にする可搬型給電器「パワー・ムーバー®」の新たな市場への提案を推進しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は59,883百万円と前年同期比5.0%の増収となりました。また利益につきましては、営業利益は2,300百万円と前年同期比21.7%の減益、経常利益は3,666百万円と前年同期比3.4%の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は655百万円(前第2四半期連結累計期間は2,149百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

製品区分別売上高につきましては、電子機器用は、自動車関連機器向けの需要が伸長したことに加え、インバータ関連機器向けも堅調に推移したことなどにより41,535百万円と前期比7.0%の増収となりました。

電力・機器用及び応用機器は、EV・HV向け機器用コンデンサが伸長しましたが、応用機器が上期中の引き渡しが少なかったことなどにより5,047百万円と前年同期比14.8%の減収となりました。

回路製品は、家庭用蓄電システムが新製品の導入遅れにより減収となりましたが、事務機器向けなどの電源製品および機能モジュールの売上が増加したことなどにより12,821百万円と前年同期比8.8%の増収となりました。

海外売上高につきましては、アジア市場において事務機器向けなどの電源製品が増加したことなどにより前年同期比13.5%の増収となりました。また、米州や欧州他については自動車関連機器向けなどが伸長したことにより、米州は前期比21.3%、欧州他は前期比6.5%それぞれ増収となり、海外市場全体でも前期比13.5%の増収となりました。国内市場につきましては、自動車関連機器向けやインバータ関連機器向けの売上が増加しましたが、応用機器や家庭用蓄電システムの売上が減少したことなどにより前期比7.2%の減収となりました。これらの結果、連結売上高に占める海外売上高の割合は、前期比4.8ポイント上昇し64.0%となりました。

設備投資につきましては、新規事業の成長を見据えた技術・開発投資および当社のコア事業の強化のための戦略的投資として生産能力拡大投資を行ったことなどにより、3,610百万円の設備投資を実施しました。

所在地別の経営成績は、次のとおりです。

日本

国内においては、自動車関連機器向けやインバータ関連機器向けが堅調に推移しましたが、応用機器や家庭用蓄電システムの売上が減少したことなどにより、売上高は22,124百万円と前年同期比7.2%の減収となりました。営業損失は、販売コストが増加したことなどにより257百万円(前年同期は838百万円の営業利益)となりました。

米国

米国地域においては、自動車および情報通信向け需要が増加したことなどにより、売上高は4,495百万円と前年同期比21.3%の増収となりました。営業利益は、売上高の増収効果や販売コストの削減などにより182百万円と前年同期比7.6倍の増益となりました。

アジア

アジア地域においては、事務機器向けの電源製品が増加したことなどにより、売上高は28,564百万円と前年同期比14.0%の増収となりました。営業利益は、売上高の増収効果や販売コストの削減などにより1,928百万円と前年同期比1.1%の増益となりました。

欧州他

欧州その他の地域においては、自動車および産業機器向け需要が好調となったことなどにより、売上高は4,699百万円と前年同期比6.6%の増収となりました。営業利益は、売上高の増収効果などにより328百万円と前年同期比73.0%の増益となりました。

・所在地別経営成績

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	アジア (百万円)	欧州他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	23,831	3,706	25,062	4,406	57,007	-	57,007
(2)所在地間の内部売上高又は振替高	15,529	-	6,003	0	21,533	21,533	-
計	39,361	3,706	31,065	4,407	78,541	21,533	57,007
営業利益	838	23	1,907	189	2,959	21	2,937

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	アジア (百万円)	欧州他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	22,124	4,495	28,564	4,699	59,883	-	59,883
(2)所在地間の内部売上高又は振替高	17,624	-	5,743	-	23,367	23,367	-
計	39,748	4,495	34,308	4,699	83,251	23,367	59,883
営業利益又は営業損失( )	257	182	1,928	328	2,181	118	2,300

・海外売上高

前第2四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年9月30日）

	米州	アジア	欧州他	計
海外売上高（百万円）	3,709	25,640	4,411	33,762
連結売上高（百万円）				57,007
連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	6.5	45.0	7.7	59.2

当第2四半期連結累計期間（自平成30年4月1日至平成30年9月30日）

	米州	アジア	欧州他	計
海外売上高（百万円）	4,498	29,114	4,700	38,313
連結売上高（百万円）				59,883
連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	7.5	48.6	7.9	64.0

・販売実績

製品区分	前第2四半期連結累計期間 （自平成29年4月1日 至平成29年9月30日）		当第2四半期連結累計期間 （自平成30年4月1日 至平成30年9月30日）		増減	
	金額 （百万円）	構成比 （％）	金額 （百万円）	構成比 （％）	金額 （百万円）	増減比 （％）
電子機器用	38,806	68.1	41,535	69.4	2,729	7.0
電力・機器用及び応用機器	5,922	10.4	5,047	8.4	875	14.8
回路製品	11,789	20.7	12,821	21.4	1,032	8.8
その他	489	0.8	478	0.8	10	2.2
合計	57,007	100.0	59,883	100.0	2,876	5.0

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ1,302百万円減少し23,538百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動に使用した資金は、12,961百万円の支出(前第2四半期連結累計期間は5,157百万円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が1,528百万円、減価償却費が2,044百万円となりましたが、課徴金の支払額が15,165百万円、たな卸資産の増加額が1,482百万円となったことなどによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ1,270百万円支出が減少し1,370百万円の支出となりました。これは主に、有価証券・投資有価証券の売却及び償還による収入が6,983百万円となりましたが、有形固定資産の取得による支出が2,951百万円となったことに加え、有価証券・投資有価証券の取得による支出が5,267百万円となったことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって得られた資金は、12,857百万円の収入(前第2四半期連結累計期間は981百万円の支出)となりました。これは主に、配当金の支払額が766百万円となりましたが、設備投資資金として長期借入れによる収入が14,000百万円となったことなどによるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

株式会社の支配に関する基本方針について

当社は、「より良い地球環境の実現に努め、価値ある製品を創造し、明るい未来社会づくりに貢献していくこと」を経営理念に掲げています。また、倫理的・社会的責任を果たすとともに、株主の皆様をはじめとする全ての人々を大切に、企業価値の最大化を目指して、「誠心誠意」をもって「考働（ ）」しています。

この経営理念に基づき、会社の支配に関する基本方針として、当社に対し買収提案が行われた場合は、これを受け入れるか否かの最終的な判断は、その時点における当社株主の皆様委ねられるべきであり、またその場合に株主の皆様が、十分な情報と相当な検討期間に基づき、公正で透明性の高い株主意思の確認手続きを通じた判断（インフォームド・ジャッジメント）を行えるようにすることが、企業価値および株主共同の利益の確保と向上のため必要であると考えています。

考働：考えて働くという当社の造語。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は2,369百万円です。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	137,000,000
計	137,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年11月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	78,000,000	78,000,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	78,000,000	78,000,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成30年7月1日～ 平成30年9月30日	-	78,000,000	-	14,286	-	17,065

( 5 ) 【大株主の状況】

(平成30年9月30日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	4,161	6.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	3,644	5.2
株式会社京都銀行	京都市下京区烏丸通松原上ル薬師前町700番地	3,479	5.0
ニチコン取引先持株会	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地 ニチコン株式会社内	2,995	4.3
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	2,690	3.9
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6 日本生命証券管理部内	2,670	3.8
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	2,200	3.2
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	2,000	2.9
SSBTC CLIENT OMNIB US ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	1,699	2.4
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/JANUS HENDERSON HORIZON FUND (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD- HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	1,521	2.2
計	-	27,061	38.9

- (注) 1. 株式会社みずほ銀行から、平成29年12月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、平成29年12月15日現在で4,614千株保有している旨、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーから、平成29年4月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、平成29年3月31日現在で3,198千株保有している旨、野村アセットマネジメント株式会社から平成30年1月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、平成30年1月15日現在で4,178千株保有している旨、ならびに株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから、平成30年4月16日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、平成30年4月9日現在で3,996千株保有している旨記載されているものの、いずれも当社として、実質所有株式数の確認ができないため、平成30年9月末日現在の株主名簿に基づき記載しています。
2. 上表の日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は3,574千株です。それらの内訳は、年金信託組入分749千株、投資信託組入分2,825千株となっています。日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は2,753千株です。それらの内訳は、年金信託組入分864千株、投資信託組入分1,888千株となっています。
3. 上記には含まれていませんが、当社は自己株式8,362千株を所有しています。



( 6 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

(平成30年9月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 8,362,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 69,580,500	695,805	-
単元未満株式	普通株式 57,000	-	-
発行済株式総数	78,000,000	-	-
総株主の議決権	-	695,805	-

(注)「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式です。

【自己株式等】

(平成30年9月30日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ニチコン株式会社	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地	8,362,500	-	8,362,500	10.7
計	-	8,362,500	-	8,362,500	10.7

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役職の異動は、次のとおりです。

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	執行役員専務 経理本部長 兼 広報・IR 室長	取締役	執行役員専務 経理本部長 兼 IR室長	近野 斉	平成30年9月3日
取締役	上席執行役員常務 企画本部長	取締役	上席執行役員常務 企画本部長 兼 企画本部シ テム部長	矢野 明弘	平成30年9月3日

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しています。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）および第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	24,841	23,538
受取手形及び売掛金	1 27,491	1 28,142
電子記録債権	1 3,818	1 3,896
有価証券	6,326	6,747
商品及び製品	7,851	8,459
仕掛品	4,310	5,007
原材料及び貯蔵品	6,614	6,891
その他	3,100	3,613
貸倒引当金	49	44
流動資産合計	84,304	86,251
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,845	12,875
機械装置及び運搬具(純額)	7,184	8,472
その他(純額)	8,317	8,379
有形固定資産合計	28,346	29,727
無形固定資産	1,342	1,270
投資その他の資産		
投資有価証券	38,507	36,387
その他	2,530	2,448
貸倒引当金	237	239
投資その他の資産合計	40,800	38,597
固定資産合計	70,488	69,594
資産合計	154,792	155,846

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	1 10,411	1 11,754
電子記録債務	9,216	8,741
短期借入金	1,800	1,800
1年内返済予定の長期借入金	-	1,168
未払法人税等	983	1,031
賞与引当金	1,043	1,072
その他	1 25,600	1 12,359
流動負債合計	49,055	37,927
<b>固定負債</b>		
長期借入金	-	12,832
その他の引当金	1,380	1,381
退職給付に係る負債	2,135	1,967
その他	6,458	6,510
固定負債合計	9,974	22,691
負債合計	59,029	60,619
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	14,286	14,286
資本剰余金	17,068	17,068
利益剰余金	57,199	57,088
自己株式	10,123	10,123
株主資本合計	78,431	78,320
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	14,266	13,892
為替換算調整勘定	1,004	1,012
その他の包括利益累計額合計	15,270	14,905
非支配株主持分	2,060	2,001
純資産合計	95,762	95,227
負債純資産合計	154,792	155,846

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成30年 4 月 1 日 至 平成30年 9 月30日)
売上高	57,007	59,883
売上原価	46,384	49,524
売上総利益	10,623	10,359
販売費及び一般管理費	1 7,685	1 8,059
営業利益	2,937	2,300
営業外収益		
受取利息	90	95
受取配当金	227	258
持分法による投資利益	91	80
為替差益	176	891
その他	108	122
営業外収益合計	694	1,448
営業外費用		
支払利息	10	21
その他	75	60
営業外費用合計	86	81
経常利益	3,545	3,666
特別利益		
固定資産売却益	3	0
投資有価証券売却益	-	646
特別利益合計	3	646
特別損失		
固定資産処分損	13	34
独占禁止法関連損失	2 4,748	2 2,648
その他	161	102
特別損失合計	4,923	2,785
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 ( )	1,374	1,528
法人税、住民税及び事業税	804	644
法人税等調整額	188	128
法人税等合計	615	772
四半期純利益又は四半期純損失 ( )	1,990	755
非支配株主に帰属する四半期純利益	159	100
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 ( )	2,149	655

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	1,990	755
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,271	542
為替換算調整勘定	127	158
持分法適用会社に対する持分相当額	19	50
その他の包括利益合計	4,419	332
四半期包括利益	2,428	423
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,233	289
非支配株主に係る四半期包括利益	195	133

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	1,374	1,528
減価償却費	1,398	2,044
投資有価証券売却損益( は益)	-	646
独占禁止法関連損失	4,748	2,648
売上債権の増減額( は増加)	1,107	424
たな卸資産の増減額( は増加)	470	1,482
仕入債務の増減額( は減少)	1,764	429
その他	651	1,623
小計	5,611	2,474
法人税等の支払額	761	602
課徴金の支払額	-	15,165
その他	307	332
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,157	12,961
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	3,860	4,864
有価証券の売却及び償還による収入	4,962	5,834
有形固定資産の取得による支出	1,940	2,951
投資有価証券の取得による支出	1,451	402
投資有価証券の売却による収入	-	1,148
その他	351	134
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,641	1,370
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	-	14,000
配当金の支払額	766	766
自己株式の取得による支出	0	0
その他	214	375
財務活動によるキャッシュ・フロー	981	12,857
現金及び現金同等物に係る換算差額	219	171
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	1,754	1,302
現金及び現金同等物の期首残高	21,279	24,841
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,033	23,538

【注記事項】

( 継続企業の前提に関する事項 )

該当事項はありません。

( 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更 )

該当事項はありません。

( 会計方針の変更 )

該当事項はありません。

( 会計上の見積りの変更 )

該当事項はありません。

( 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理 )

該当事項はありません。

( 追加情報 )

( 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用 )

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」( 企業会計基準第28号 平成30年2月16日 )等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しています。

( 四半期連結貸借対照表関係 )

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しています。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	387百万円	141百万円
電子記録債権	125	63
支払手形	265	308
流動負債その他 (設備関係支払手形)	60	112

2 各国競争法調査およびクラスアクション(集団訴訟)について

当社グループは、電解コンデンサの販売に関して、各国の競争当局より調査を受けておりました。これに伴い、米国およびカナダにおいて、当社および当社の米国子会社に対してクラスアクション(集団訴訟)が提起されており、引き続き適切に対応します。

これらの手続は現在も継続中であり、その結果として当社グループの経営成績などにも影響を及ぼす可能性があります。



(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の内、主要なものは次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1. 運送費	1,434百万円	1,594百万円
2. 広告宣伝費	111	109
3. 給料手当及び賞与	2,086	2,142
4. 退職給付費用	56	58
5. 賞与引当金繰入額	240	251
6. 製品保証引当金繰入額	94	38
7. 減価償却費	158	225
8. 研究開発費	618	846
9. 支払手数料	1,083	947

2 独占禁止法関連損失

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

当社は、米国司法省との間で、電解コンデンサの販売に関して当社が米国競争法に違反したとの嫌疑について、罰金42百万米ドル(4,748百万円)の支払い等を内容とする司法取引に合意しました。当該罰金を独占禁止法関連損失として特別損失に計上しています。

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)

当社および当社の子会社は、平成30年9月27日に米国において間接購買者原告団から提起された集団民事訴訟について、原告団との間で和解契約を締結しました。本和解に基づき当社および当社の子会社は、間接購入者原告団に対して、和解金として21.5百万米ドル(2,404百万円)を支払います。当該和解金額を、独占禁止法関連損失として特別損失に含めています。

なお、本和解は、今後、裁判所の承認手続きを経て、正式に確定します。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金及び預金	24,147百万円	23,538百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,114	-
現金及び現金同等物	23,033	23,538

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	766	11.0	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末  
後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年11月2日 取締役会	普通株式	766	11.0	平成29年9月30日	平成29年12月4日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	766	11.0	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末  
後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年11月2日 取締役会	普通株式	766	11.0	平成30年9月30日	平成30年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)および当第2四半期連結累計期間  
(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

当社グループは、「コンデンサおよびその関連製品」の製造ならびに販売を主な事業としており、各拠点に  
製品の販売もしくは製造、またはその両方の機能を置き、本社はグループ全体の戦略を立案し、事業活動を展  
開しています。当社グループは、各拠点別を基礎とした事業セグメントから構成されており、経営意思決定お  
よび業績評価を行っています。当該事業セグメントの経済的特徴、製品およびサービスの内容、製品の製造  
方法または製造過程やサービスの提供方法などの要素が概ね類似していることから、「コンデンサおよびその  
関連製品」の単一の報告セグメントとしており、記載を省略しています。

(金融商品関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成30年9月30日)

当第2四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額および前連結会計年度末に係る連結貸借対照表計上額と時価  
との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しています。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成30年9月30日)

企業集団の事業の運営において重要性が乏しいため、記載を省略しています。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成30年9月30日)

前連結会計年度末から著しい変動が認められないため、記載を省略しています。

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額および算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )	30円87銭	9円41銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額( ) (百万円)	2,149	655
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額( ) (百万円)	2,149	655
普通株式の期中平均株式数(千株)	69,638	69,637

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。なお、前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成30年11月2日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議しました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....766百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....11円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日および支払開始日.....平成30年12月4日

(注) 平成30年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月5日

ニチコン株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	尾仲 伸之	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	須藤 英哉	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているニチコン株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ニチコン株式会社及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 強調事項

注記事項（各国競争法調査およびクラスアクション（集団訴訟）について）に記載されているとおり、会社グループは、電解コンデンサの販売に関して、各国の競争当局より調査を受けており、米国およびカナダにおいて、会社および会社の米国子会社に対してクラスアクションが提起されている。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。